

主題：顕微鏡歯科衛生士が後輩に伝えたいこと
副題：拡大した世界を知る

日本大学松戸歯学部附属病院
歯科衛生士 吉岡美奈

近年、顕微鏡を使用した治療が普及してきています。日本大学松戸歯学部附属病院でも保存科診療室に6台の顕微鏡が設置されていて、フル稼働している状況です。ここでは、本学附属歯科衛生専門学校の2年生、3年生が臨床実習教育を受けています。各科を6日間の配属期間でローテーションしていて、保存科では主に歯科診療のアシスタントに付き、一般診療はもちろん、顕微鏡の治療のアシスタントにもついています。

顕微鏡がどのような機器なのか知ってもらうために、3年生の保存科配属中に顕微鏡を実際に触れて覗いてもらう体験実習を行います。まず、診療の際に拡大して診療を行う物として顕微鏡とルーペ等の拡大システムがありますが、その違いについて説明します。そして、顕微鏡使用手順を説明し、対象物を合わせて倍率を上げて、どのように見えるかモニターに写しながら違いを確認してもらいます。その後、実際に学生にも相互実習で口腔内を顕微鏡で見てもらい、探針操作やミラーテクニックを行い、視点を合わせる難しさや操作する難しさ、そして何よりも顕微鏡を覗いた拡大した世界を体験してもらいます。顕微鏡を扱っている歯科医師のように、スムーズな操作をするためにも訓練が必要であることや、術者の視線になることでアシスタントがどのような介補をしなければいけないかなど、考えて作業するように指導します。

顕微鏡が設置されている病院・医院が少ない中、当院では多くの顕微鏡が設置されているので、臨床実習を行う上でとても良い環境だと思います。そのような環境で行う臨床実習で顕微鏡に出会い、将来顕微鏡に携わる歯科衛生士が増えるきっかけになればと考え、学生指導に携わっています。今回は臨床実習で行っている顕微鏡の体験実習について紹介します。